

## 第2期清水町人口ビジョン・総合戦略

清水町役場企画課

### はじめに

清水町は十勝平野の西部に位置し、「国道38号」と「国道274号」の2本の国道が交差しており、さらには、道東自動車道のIC（インターチェンジ）を有する、まさに道東の玄関口とも呼べる町であり、豊かな大地が育む畑作と酪農が盛んな町です。

本町の歴史は、明治31（1898）年に、近代日本経済の父と呼ばれる実業家「渋沢栄一」によって設立された十勝開墾合資会社が熊牛農場を開設したことに始まります。



清水町位置図

昭和31（1956）年には、御影村<sup>みかげむら</sup>と合併し、住民基本台帳人口は18,492人でピークを迎えることになりました。同時期に、新町建設計画に基づいて、大規模工場を充実させることで、農産工業の町を形成しました。現在では、地域資源を利用した地域に根ざした食料品製造が総出荷額の8割以上を占めています。このように、基幹産業である農業に関連して、運輸業、食料品製造業などが雇用の受け皿や地元企業の経済基盤となっています。

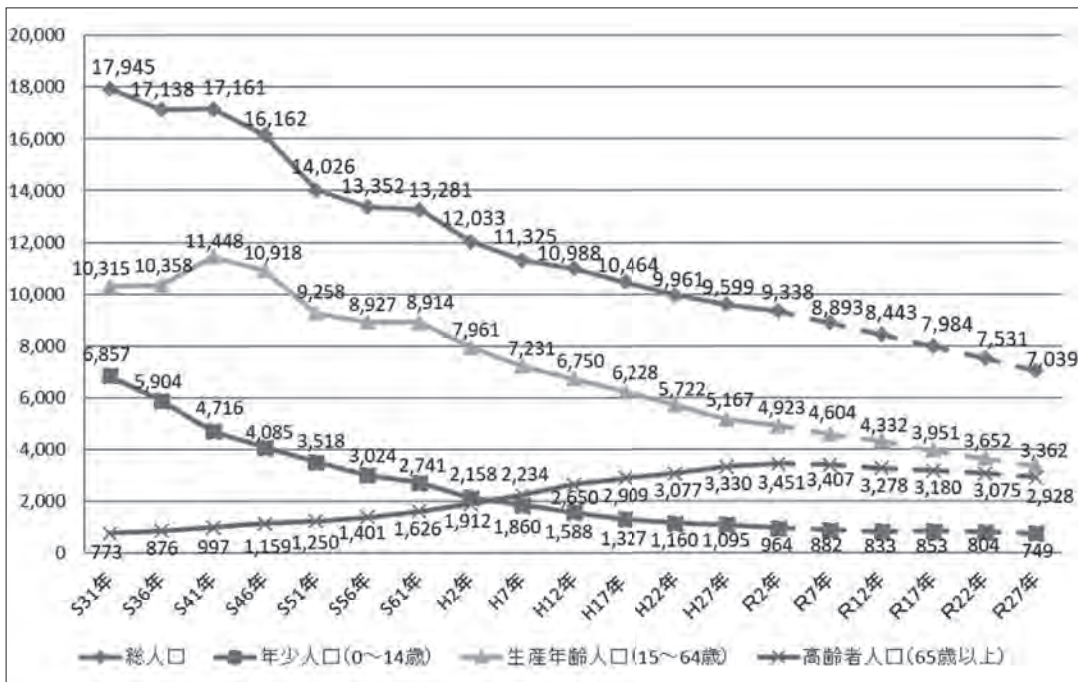


日勝峠

地方創生を推進していくためには、本町の特徴を活かしながら、時代の流れに沿った取組みを進めていくことが求められます。本町は日本甜菜製糖株式会社清水工場の進出に始まり、「農産工業の企業城下町」が原点になっています。魅力あるまちづくりを推進するためには、多様な人材がその能力等を生かし、豊かな自然と先人により培われた歴史や地域性豊かな資源を尊重し、郷土愛を醸成するとともに、人との絆や心のつながりがあふれる地域コミュニティで住み続けたいと思えるまちを築く必要があります。

### 人口の現状分析

本町の人口は昭和31（1956）年の18,492人（住民基本台帳ベース）をピークに昭和40（1965）年から一貫して減少が続き、平成22（2010）年度の国勢調査では、はじめて1万人を切り、平成27（2015）年度の国勢調査では9,599人となりました。日本全体が少子高齢化などを背景とした人口減少社会へ転じていく中、令和2（2020）年9月末9,338人（住民基本台帳ベース）から、国立社会保障・人口問題研究所（以下「社人研」という。）が発表した「日本の地域別将来推計人口」を基に、今後



第2期人口ビジョン・総合戦略策定時

の人口動態を分析すると、10年後の令和12（2030）年には8,443人、20年後の令和22（2040）年には7,531人となる見込みです。第2期人口ビジョン・総合戦略策定当時、社人研の推計によると、本町の人口は減少を続け、平成27（2015）年の総人口9,599人に対して令和7（2025）年は8,893人に減少すると見込まれ、令和27（2045）年には7,039人（平成27年から26.7%減少）になるものと推計されています。図に示されるように、年齢3区分別人口の将来推計の内訳は、年少人口（0～14歳）は、平成27年の1,095人に対して令和27年は749人（31.6%減少）、生産年齢人口（15～64歳）は、5,167人に対し3,362人（34.9%減少）、老年人口（65歳以上）は、3,330人に対し2,928人（12.1%減少）と推計されています。

計画策定当時から状況は変化していますが、今後も現状にあった見直しを行っていきます。

### 第2期清水町人口ビジョン・総合戦略の趣旨

本町では、「まち・ひと・しごと創生法」に基づき、地方版総合戦略（令和3年度～令和7年度）の策定に当たっては、総合計画の目指す姿である「まちに気づくまちを築くとち清水～想いをミライに繋ぐまち～」を実現するために、町民・事業者・行政など本町を構

成する各主体が「協働の精神」と「まち・ひと・しごとの創生」という好循環を通じて人口増加に効果がある施策を展開し、持続可能なまちづくり推進するための計画として定めたものです。

### 第2期清水町人口ビジョン・総合戦略の位置付け

人口ビジョンの活用など客観的な分析に基づいて本町の課題を把握・整理し、その解消に向けて、一定のまとまりの政策分野ごとに戦略の基本目標や具体的な施策等の設定を行い、自主性・主体性を発揮しながら、まち・ひと・しごと創生に関する施策を総合的かつ計画的に実施する戦略として位置づけています。

### 基本目標と具体的な施策

#### 基本目標1 まちの産業を確立し、安心して働けるようにする

##### 基本的方向

- ① 基幹産業である農畜産業と関連産業の成長による安定した雇用を創出するとともに、高付加価値型商品・サービスを開発する
- ② 若者や女性、意欲のある者が起業しやすい環境づくりを進める

- ③ 町民や事業者の需要を取り込み、町内の経済循環性を高める仕組みを作る
- ④ 正規雇用につながる取組みを進める

**具体的な施策**

○ 地域ブランドの推進

J A、商工会、観光協会、J A 蔬菜振興会<sup>そさい</sup>にんにく部会と町で組織した実行委員会において、十勝清水にんにくの普及・促進を図ります。



十勝清水産にんにく

○ マイホーム取得奨励金

自ら居住する目的で住宅を新築又は購入する者、中古住宅や既存住宅をリフォームする者に対し、費用の一部の助成を行い定住人口の増加及び地域経済の活性化を図ります。

**基本目標 2 まちにひとの流れをつくる**

**基本的方向**

- ① 地域資源を発掘・活用し、町民全体で情報共有して町内外に発信することで、市街地に人の流れをつくり、交流人口の拡大を図る
- ② PR活動や交流人口の拡大の取組みと連携しつつ、受入体制を整備し、大都市圏などからUIJターンを増加させる
- ③ 起業者や有資格者の若い世代を引き込むような仕掛けづくりを進める

**具体的な施策**

○ LINEを活用した情報発信のデジタル化

LINEを活用した情報発信を図ることで町民等への利便性の向上を図ります。また、町外向けコンテンツ

を作成することで関係人口、交流人口の増加につながります。

○ 地域DXベンチャーの発掘・育成・創出

首都圏・都市部の人材が移住して新たな価値観で本町の地域課題や地域資源を活用したDXビジネスにチャレンジできる環境を整備します。

○ 移住交流促進

観光促進と経済発展を目的とした包括連携協定をAirbnb japan株式会社と締結。

まちまるごとホテルは、まちの中に点在している空き家や遊休資産を活用し、まち全体をまるごと一つのホテルのように見立て、つながりとひとの流れがある持続可能なまちづくりを目指しています。宿泊や二拠点居住する人たちが町を回遊して地域経済が活性化する仕組みをつくっています。



AirbnbJapanと清水町の包括連携協定締結式  
(写真左：AirbnbJapan田邊代表、写真右：(前)清水町長阿部一男)

○ 子育て移住体験（保育園留学）

本町の魅力溢れる子育て環境を活用した保育園留学を通じて、雇用・関係人口の創出を図っています。



保育園留学



### 基本目標3 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

#### 基本的方向

- ① 若い世代の経済的安定と様々な支援を図り、結婚の希望をかなえる
- ② 専門的な支援や社会・経済・職場環境の整備により、出産や育児にかかる負担や不安の軽減を図り出産の希望をかなえる
- ③ 地域資源を生かした特色のある教育や子育て環境を整備し、子育て世帯から選ばれるまちを目指し、若い世代の定住・移住を図る

#### 具体的な施策

##### ○ 不妊・不育治療の支援

特定不妊治療費、一般不妊治療費の助成及び不育症治療費を助成することにより、出産を望む夫婦が経済的な心配をせずに治療を受け、出産の希望を叶えられるよう後押しします。

##### ○ 子育て世帯保育料等支援

多子世帯において、第2子以降の保育料、保育所通所タクシー料を無料として、多子世帯の育児の負担を軽減します。



しみず認定こども園「ほっけ」

### 基本目標4 安心して生活しやすいまちづくりとともに、広域連携を推進する

#### 基本的方向

- ① 健康で活動的な町民を増やし、コミュニケーションを高め、町民同士の連携と支援によるまちづくりの活動を活発にする
- ② 将来、町民が安心して暮らせるよう、医療・福祉などの生活機能を確保する

- ③ 既存の施設などの資産を有効活用し、快適で安らぎを感じられる住みよいまちづくりを進める
- ④ 広域連携を進め、効率的で有効な公共サービスを提供する

#### 具体的な施策

##### ○ 第九文化の継承

合唱ワークショップを開催し、地域で培われてきた第九文化を次世代に継承するとともに、文化芸術活動の輪を広げます。



第九合唱

##### ○ アイスホッケーのまちづくり

アイスホッケー教室などの競技力向上に向けた支援により、スポーツ交流を進めます。



アイスホッケー

#### おわりに

今後は、第6期清水町総合計画で掲げた将来像「まちに気づくまちを築くとちしみず～想いをミライに繋ぐまち～」に向けて、町の歴史や地域性を尊重した郷土愛の醸成や、人との絆や心のつながりを重要とするコミュニティの形成を目指した町づくりに取り組んでいます。